

芦屋室内合奏団

第36回定期演奏会



神戸朝日ホール

2002年11月24日（日）

◎ごあいさつ

昭和40年に、当時の神戸大学・甲南大学の学生達を中心となって、芦屋市浜町の橋本邸に室内楽を楽しむために集まり産声をあげた当団も、お陰様で37年目を迎えました。この間、勤務の関係で海外を含め各地に散っていた団員も年のせいか、次々と戻ってきて、創設時のメンバーも大体揃ってきました。(未だに、遠隔地でウロウロしている者も若干名おりますが・・・)

さて、今回はここ何年か続いていました刺激的な現代曲もなく、久しぶりにオーソドックスな美しい曲ばかりの構成であり、又初めての試みとして、いつも指揮をお願いしている酒井先生のクラリネット・ソロも交えてゆっくりお楽しみいただけたらと存じます。最後に、皆様方の変わらぬご声援に感謝いたします。

2002年11月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良
団員 一同



プログラム

G. ロッシーニ 弦楽のためのソナタ 第1番

I. Moderato II. Andantino III. Allegro

W. A. モーツァルト クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

I. Allegro II. Adagio III. Rondo

クラリネット独奏 酒井睦雄

休憩 (20分)

F. シューベルト 交響曲 第5番 変ロ長調

I. Allegro II. Andante con moto
III. Menuetto IV. Allegro vivace

指揮 酒井睦雄

◎本日の演奏曲目について

㉟ G. ロッシーニ 弦楽のためのソナタ 第1番

モーツァルトが亡くなった翌年に生まれたジョアッキノ・ロッシーニは、アゴスティーノ・トリオツツという芸術パトロンのおかげにやっかいになっていたとき、6曲のソナタを書いた。のちにもっぱらオペラ作曲家として活躍するロッシーニは、とくに若い頃、室内楽をたくさん書いた。なかでも有名なのはこの6曲。一種の弦楽四重奏だが、ヴァイオリン2、チェロ、コントラバスという特異な編成になっている。本日取り上げるのはその第1番。実

はこのときロッシーニ12歳。やれやれ、われわれは馬齢を重ねてしまったものである。うまいものだ。若さと軽快さの中にモーツァルトというお手本も透けて見える。おまけにこの小僧の作品、演奏技術の要求度は決して低くない。今日もおじさん、おばさんたちはとっても苦労させられるのだ。トリオツツは自らコントラバスを弾いた。だからこの曲ではバスも大活躍する。

㉟ W. A. モーツァルト クラリネット協奏曲

これに対して、モーツァルトのクラリネット協奏曲は、最晩年の作品。といっても、35歳で亡くなっているモーツァルトの、その最後の年の作曲である。やれやれ、やっぱりわれわれは馬齢を……。1791年の9月に「魔笛」を書き、ただちに上演されて大成功を収めたあと、10月にこの曲が書かれる。そして11月にはモーツァルトは病の床につく。12月5日没。あとは「レクイエム」が未完成で残されただけで、この協奏曲がモーツァルトが完成させた最後のまとまった曲ということになる。いささかセンチメンタルに、「死を予感したモーツァルトの晴朗な諦観と彼岸への祈りを湛えた、世にも美しい告別の歌である」(田辺秀樹)などと書かれるゆえんである。

クラリネットというのは比較的歴史の浅い楽器で、1700年頃原型が作られた後、18世紀後半になって広く使われるようになる。よく言われるように、

友人の名奏者シュタードラーの存在も大きかったのだろう、モーツァルトのこの曲は、その楽器の力をいきなり活かしきって他に例のない作品だ。クラリネット協奏曲の名作は、以後、かなりおいてウェーバー、ずっとさがってドビュッシーのラブソディやブゾーニの小協奏曲まで待たなければならない。

ところで、この曲のソロは指揮者の酒井先生がお吹きになる。ソロ部分では当然棒を振ることは不可能なわけで、メンバーの一部は戦々競々としている。酒井先生の指揮におんぶにだっこで来た芦屋室内合奏団、この曲の演奏が万うまくいけば、一皮剥けたと言えることになるのかもしれない。皆様は、酒井先生のソロを、そしてそこに聞かれるモーツァルトの白鳥の歌を、どうぞご賞玩下さいませ。

㉟ F. シューベルト 交響曲 第5番

生まれはロッシーニに遅れること5年で、モーツァルト同様早世したシューベルトの交響曲第5番も、まだ19歳のときの作品だ。やれやれ、やっぱりわれわれは……。それはさておき、数年前、かつてのアマデウス弦楽四重奏団のメンバーが京都で室内楽セミナーを開いた時、ノーバート・ブレインは、ギャラリーにいきなり「室内楽chamber music とは何か」と尋ねた。私が馬鹿のように「chamberで弾くmusic だろう」と応えると、ブレインは我が意を得たりといった顔で、そうだ、しかしそのchamber がどういうものが問題だ、と語りはじめた。部屋には違いない。だがそれは王侯貴族の宮殿なのだ。だから決して小さなちまちました演奏をしてはいけない云々。この説明がど

こまで正確と言えるかどうかは分からないが、演奏へのアドバイスとしては重要なものだったと思う。シューベルトの交響曲は、出身校のコンヴィクトのほかに、主にヴァイオリニストのオットー・ハトヴィヒの家で演奏された。作曲家本人はヴァイオラを弾いたという。つまり「室内」で演奏されていたのだ。わけても小編成でちょっとモーツァルトを思わせ、室内乐的なのが、この第5番だ。しかしハトヴィヒなる人物の住まい、曲がりなりにもオーケストラと聴衆が入ったのだから、宮殿とまではいかずとも、たいそうな屋敷ではあったようだ。われわれは真に室内乐的な、おおきな演奏ができるだろうか……。

t.a.

◎クラリネット・指揮 酒井睦雄

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斉藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F.フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルクにてO.スイトナー氏に師事。同年、東京にてS.チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてニューイヤーコンサートをドイツ・バンベルク交響楽団員とともに開催し好評を博す。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

◎芦屋室内合奏団の足跡【1965～2002】

- | | | | |
|-----------|--|----------|-------------------------------------|
| ・コレリ | クリスマス協奏曲、サラバンド・ジグ・パディシ
合奏協奏曲 op. 6-1, 6-6, 6-7 | ・シュターミッツ | マンハイム・シンフォニーNo. 1 |
| ・パーセル | トランペットと弦楽のためのソナタ
アダージェット、グランド・アリアス | ・ジエミアニ | 「ラ・フォリア」 |
| ・マルチェロ | ホルン協奏曲 | ・グルック 歌劇 | 「ドン・ジョアン」より |
| ・アルビノーニ | 弦楽のためのソナタ、シンフォニーNo. 3
ホルン協奏曲 op. 9-2 | ・パガニーニ | 弦楽のためのロンド |
| ・ヴィヴァルディ | 「四季」、チェロ協奏曲、
2つのチェロのための協奏曲、
合奏協奏曲 op. 3-3, 3-10, 3-11, 3-12 | ・ロッシニ | 弦楽のためのソナタNo. 1 |
| ・テレマン | 3つのVn弦楽通奏低音のための序曲、
組曲イ短調、Vla協奏曲、組曲「リラ」、
ブロックフレーテと弦楽のための組曲
組曲No. 1 | ・ベーム | クラリネットと弦楽五重奏のためのアダージェット |
| ・ヘンデル | 合奏協奏曲 op. 6-1, 6-2, 6-3, 6-5,
6-6, 6-9 | ・シュトラウス | トリッチ・トリッチ・ホルン |
| ・バッハ | ブラテン・ブルグ 協奏曲 No. 3, No. 5, No. 6
ヴァイオリン協奏曲No. 2, ピアノ協奏曲No. 1、
ホルンとヴァイオリンのための協奏曲
管弦楽組曲No. 2, No. 3, 前奏曲イ短調、
2つのヴァイオリンのための協奏曲 | ・ホルティ | 弦楽セレナード |
| ・ハイdn | 自動オルガンのための3つの小品、
オルガン協奏曲No. 2 | ・ト・ホルン | 弦楽セレナード |
| ・モーツァルト | ディヴェルティメント K136, K137, K138, K334、
ホルン四重奏曲K370、
戴冠ミサ曲、アダージェットとフーガ K546、
セレナータ・ノットゥルナ K239、クラリネット五重奏曲
アイネ・クライネ・ナハトムジーク、村の音楽家K522
交響曲No. 29、交響曲No. 40 | ・グリーク | ホルニアの時代 |
| ・シューベルト | 交響曲No. 25、「死と乙女」 | ・マスカニ | カヴァレリア・ルスティカーナ |
| ・メンデルスゾーン | 弦楽のためのシンフォニーNo. 12 | ・ヤナーチェク | 弦楽のための組曲 |
| | | ・ラフマニノフ | ロマンスとスケルツォ |
| | | ・エルガー | 弦楽のためのセレナード |
| | | ・ウーホルツ | 「イタリアのセレナード」 |
| | | ・ニールセン | 小組曲op. 1 |
| | | ・レハール | ワルツ「金と銀」 |
| | | ・ホルスト | 弦楽のための組曲セントポール |
| | | ・スーク | 弦楽のためのセレナーデ |
| | | ・シェンベルク | 「浄夜」 |
| | | ・バルトーク | トランシルバニア舞曲、ジ・ザンパルガンの踊り
10のやさしい小品 |
| | | ・ホックリーニ | チェロ協奏曲 |
| | | ・バーバー | 弦楽のためのアダージェット
弦楽のためのセレナード |
| | | ・ブリテン | シンブル・シンフォニー |
| | | ・シベリウス | ラカスカグァ |
| | | ・ウォーロック | カプリオール |
| | | ・D. アバート | 「夢のように」「ガラスごしの翳」他 |
| | | ・芥川也寸志 | 「弦楽のためのトリプティック」 |

◎芦屋室内合奏団

音楽監督：酒井睦雄 Vn: 鳥丸安雄 阿部卓也 藤本恭子 福永千江子 三瓶政一
 団長：青柳良 福永精一 青柳良 黒川美恵子 児玉七恵 山田美代子
 コンサートマスター：鳥丸安雄 Va: 河野建一 中田久仁子 大内隆一 竹村久美子
 マネージャー：福永精一 Vc: 鳥丸直子 宮崎晴夫 堀田一之
 部長：中田和夫 CB: 中田和夫

(賛助出演) Fl: 松島美香 竹本敦子 Ob: 藤中聖恵 岡本明子

Fg: 田吉佑久子 原 梢 Hr: 船越 恵 阿部陽子

次回演奏会お知らせ：芦屋室内合奏団 春のバロックコンサート
 2003年4月6日(日) 西宮プレラホール (プレラにしのみや5階)